

男女共同参画社会をめざして

# ジェンダーってなに？

2



## 発刊にあたり



豊田市長 鈴木公平

男女共同参画社会の実現は、少子高齢時代を乗り切るための重要課題として国において位置づけられています。このことは、すべての人が女性、男性の区別なく、一人の人間としていきいきと生活を送ることができ、お互いに尊重し、助け合っていく社会の実現を意味します。

豊田市においても、男女共同参画社会の重要性を考慮し、各種施策に取り組んでおります。特に、少子化対策への取り組みは欠かすことのできないものです。男女が対等なパートナーとして支え合い、子どもたちを育むことが重要と考えています。

活力あるまちの構築のためには、子どもたちの健やかな成長が不可欠です。子どもたちがのびのびと育ち、安心して生活ができるように、男女共同参画社会を共に築いていきませんか。

女性と男性の関わりを分かりやすく理解していただくために、平成14年3月に「ジェンダーってなに？」と題し、啓発漫画を作成し、各方面からご支持をいただきました。

今回、第2弾として「ジェンダーってなに？2」を新たに作成しました。身近な話題をテーマにしておりますので、家庭や職場での会話のきっかけにしていいただければ幸いです。

平成16年3月

**さあ、皆さんも一緒に男女共同参画社会を目指しませんか。**

# 目次

第1話 オカアサンハヤスメ 2

第2話 生徒会長は誰がやる? 6

第3話 妻が寝込んだら 10

第4話 育児休暇 14

第5話 自治区の役員について 18

第6話 ワリカン 22

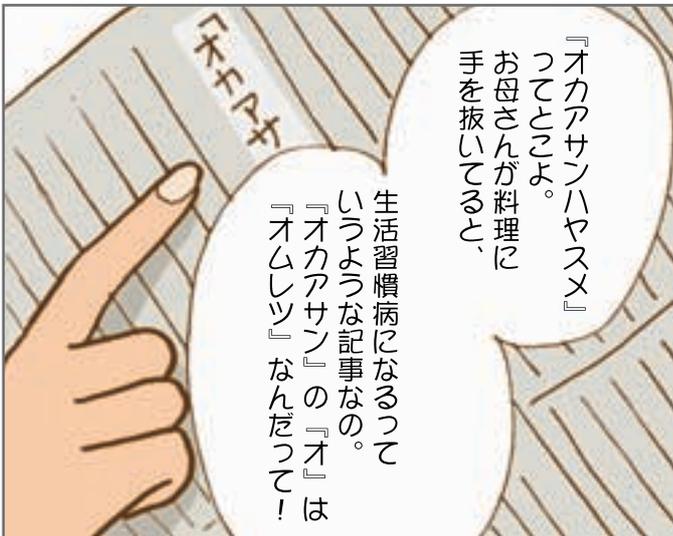
第7話 結婚か仕事か 26

第8話 『女の子』と『女性社員』 30

第9話 ジョブトレーニングは男女別?! 34

第10話 人生を楽しく 38

# 第1話「オカアサンハヤスメ」







うちのカレーは、野菜いっぱい、健康カレーです！  
 手間暇がかかるんだから、  
 一生懸命作ったご飯に、  
 ケチつけられちゃあ悲しいじゃない。  
 夫婦喧嘩のもとよ。

俺は  
 言わないよ、

言ったらどうなるか、  
 わかってるもん。  
 ありがたいと思ってます。



うーん。まあさうかなあ。



またさういうイヤミいう。さうじゃなくて、  
 一番大事なことは摂取カロリーと  
 栄養のバランスでしょ？  
 メニュー変えればいってもんじゃ  
 ないと思うのよね。

だけど、この記事見た人に、  
 一番インパクトが強いのは  
 『オカアサンハヤスメ』の文字と、  
 お母さんが楽することもが不健康に  
 なるっていうイメージでしょ？



でしょ？

『オヤラクチン』  
 とか  
 『セイジン』  
 『ヒョウノモト』  
 とか、

さういふ字も  
 いいじゃない。



ごめんごめん。  
でも、本当に  
投書しようかしら。  
メディアがこんな  
こと書いてるなんて  
時代錯誤も  
いいところだもの。

どうして、どうしてなのよ！  
俺たちが喧嘩すること  
ないんだからさ。



悪いのはこの新聞記事だろう？  
投書でもしたら？

俺に感るなよ。



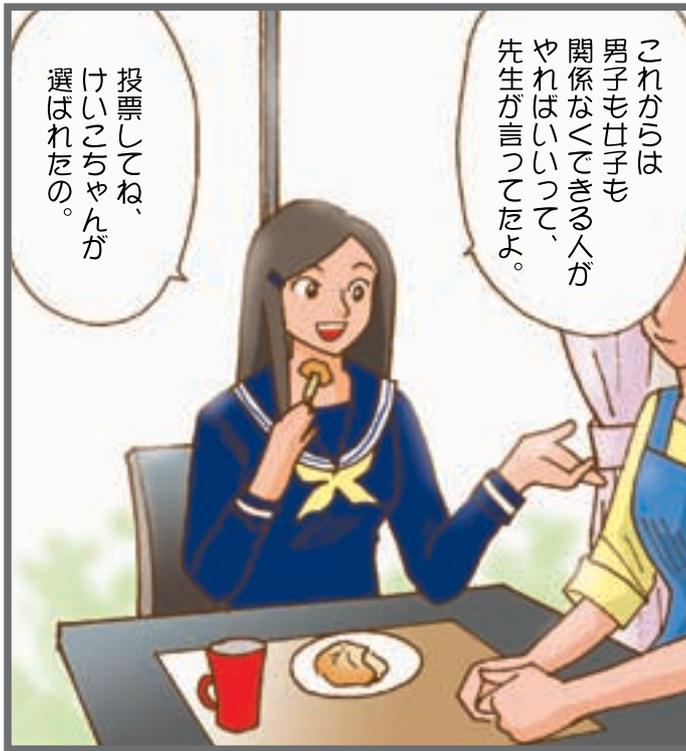
## ここがポイント



『オカアサンハヤスメ』という言葉、既に色々なところでメディア化されていますので、知っている人も多いと思います。確かにあの記事をそのまま受け取れば、お母さんが楽をすると子どもは病気になるという印象を受けてしまいますね。非難されるべきは母親の姿勢ということなのでしょうか？より多くの人共感する書き方をするのがメディアだとすれば、母親のほうをクローズアップするのも当然かもしれません。しかし、今回の記事では『オカアサンハヤスメ』の文字が一人歩きをして、本当に考えなければいけない『子どもの食生活と生活習慣病の因果関係』というテーマを正しく理解した人が果たしてどのくらいいるのでしょうか？実はこの裏にもジェンダーが隠されています。家事全般は女性の仕事、子育ても料理も家族の健康管理も男性を支える影の仕事として完璧に行うことが当たり前とされてきました。しかし、家の中の仕事は、社会的にも金銭的にも評価こそされませんが、知恵も体力も必要とするオールマイティな労働です。毎日の料理にしても、限られた予算の中から材料を買い栄養士ながら家族の健康や好みを考え、献立をたてて調理をする。365日続く大変な作業です。これを「女性の仕事として当たり前のことだ」と片付けてしまう感覚こそが、私たちの中に染み付いているジェンダー意識なのです。健康管理は生きていく上でとても大切なこと。ならば一人ひとりが自分の健康をきちんと管理することこそが大切なのではないのでしょうか。今回の話のように、私たちの周りにある様々な情報は、全てを鵜呑みにしていいことばかりではありません。何が正しくて、何を受け入れるか、家族皆で話し合い「我が家のあり方」を作っていきたいですね。

## 第2話「生徒会長は誰がやる？」







きつたなあ、  
男の子より、  
けいこちゃんのほうが  
よっぽどじつかり  
してておもしろいよ。

へえ、そうなの。  
かおりはどう思う？



**きつたなあ**



**うふふ**  
ふふふ、さうかもね。  
夜お父さんが帰ってきただけ  
教えてあげたり？

おもしろい



ところで、  
かおりは何に  
なったの？

うん……クラスの  
美化委員。



あゝあ、  
言われると思っただ...



え〜かおりが  
美化委員!  
いいじゃない。

美化委員に  
なつたからには  
これからは  
自分の部屋もきちんと  
掃除しなさいね。

△△××...



## ここがポイント



先生の言葉のように、私たちのころは生徒会長は男子、副会長は女子と決まっていた。時代は変わったんだなあつくづく感じた方も多いのではないのでしょうか。でも男の子と女の子、性別に関係なく選択肢があるということはとてもいいことではないのでしょうか。

小さいときからジェンダーにとらわれない生き方を学ぶことは子どもの可能性を広げ、またそれを受け入れる社会を作ることになります。反対に男性が主、女性は副とあたりまえのように決まっていると、いつのまにか自分の生き方さえも『男だから・女だから』と性別によってあり方を決めてしまうことになりかねません。私たちの時代にはそれが当たり前でしたし、誰の中にもジェンダーはあります。でもこれからの時代をつくる子どもたちにはジェンダーから解放されて自分らしく生きて欲しいですね。そのために大切なのは大人が自らの中にあるジェンダーに気づき、そのうえで子どもたちに何を伝えていくかということなのです。家庭でも学校でも、子どもと接するときには常にジェンダーに敏感な視点を持って欲しいと思います。また楽しみながらジェンダーについて学ぶ、そんな機会を作ってもいいのではないのでしょうか。何を言っているのかわからない、どう指導したらいいのかわかる、そんなときは「とよた男女共同参画センター」に相談してみるのもいいでしょう。学校や家庭での話題づくりに役立つものがきっと見つかるはずですよ。

# 第3話「妻が寝込んだら」





それだけでも  
良いかな...?

やらなきゃいけないこと  
いっぱいあるし。  
一番ひどいときは、  
夕飯を子どもと外に食べへに  
行ってくれたから。



ぜんぜん。

仕事が忙しくてその時間には  
とても間に合わないし、  
帰ってくるのは遅いし。



じゃあどついでなの？  
まだ顔色悪いわよ。  
大丈夫？

だって、  
いつまでも  
寝てられないでしょ。



そっか。  
ホントは『私のご飯はっ』って  
言いたいところだよ。

ホント、ホント、  
そっだよね〜。  
でも言えないんだよね〜。





そうね。  
今度は言つて  
みようかしら☆



でも家事やつてほしいとは  
言えないし。  
だつて、あつちは  
風邪ひいても薬飲んで  
会社に行くんだもん。



こつちだつて  
家事くらい  
しろつていうのが  
普通じゃない。  
はあ  
でもさ、  
旦那ねてられる  
わけじゃないし  
たまには支えて  
ほしいじゃない。



## ここがポイント



風邪をひいて寝込んでいるのに、どうして家事だけはやらないといけないの？とか、子どもを連れて外食に行く夫に『私のご飯はどうなるの？』と言いたかった言葉を飲み込んだ経験をされている女性は実は

多いのではないのでしょうか？実はここにもジェンダーが潜んでいます。従来の社会では家事は女性の役割、きちんとできて当たり前でした。だからこそ『当たり前のことさえできない私が悪いのだ』と思い、夫に助けを求めることができないのです。実はこれ、男性も同じです。働いて、家族を支えて一人前、辛いことがあっても泣き言を言わず乗り越えるのがオトコの生き方と耐えているのが現状でしょう。女性も男性も、これでは辛くなって当たり前ですよね。本音はどうでしょうか？やっぱり、辛いときは正直に気持ちを伝えて支えあいたいと思っているのではないのでしょうか？しかし、今までそれが当たり前であればあるほど、お互いの気持ちにはなかなか気がつけられないものです。言葉にしなければ相手に気持ちは伝わらないもの、『私の仕事は私がしなくては』と思いつめるのではなく、肩の力を少し抜いて相談してみれば案外すんなりと受け入れてくれるかもしれません。『どうせ言っても分かってくれない』と思う前に、相手を信頼しているからこそ、正直に気持ちを伝えられる関係を作っていきたいですね。

# 第4話「育児休暇」









でもなにを  
どうがんばればいいのか？  
私だって総合職で入社して  
これが自分の一生の  
仕事と思っていままで  
がんばってきたのに。

総合職でも  
女性だと  
イザという時に  
何の意味も  
無いのね。



私なんて一年いなくなっても  
何の支障も無いって  
いうことね。

…。

なんだかシヨック。  
こうなったら  
一年間ゆっくり  
休んでやろうかなあ。



まじで言うなよ。  
二人でがんばろう。

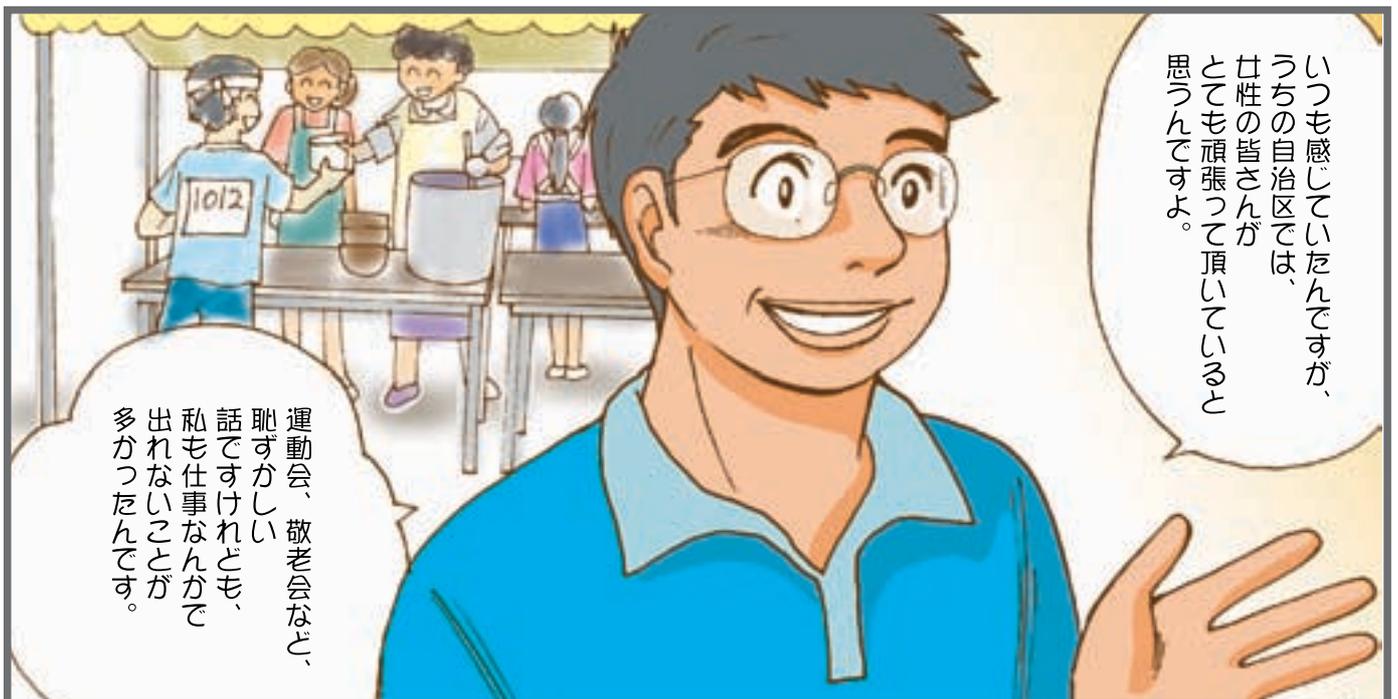


## ここがポイント



男性の育児休暇取得、新聞や雑誌の記事になることはありますが、現実にはまだまだめずらしいケースのようです。『内助の功』『出世の妨げ』『会社の慣習』などと、かなり前時代的な言葉が会話の中でできたことでお解りのように、男女雇用機会均等法の施行により、就業環境は整備されてきたというものの、肝心の意識はそれほど変化していないのが現状です。やはり女性に期待されるのは、支え手としての役割なのでしょうか。確かにそういう時代もありました。『ジェンダー』という社会的、文化的につくられた性差によって、男として女としての生き方が決められていた時代は、外で活躍するのは男性、その男性がつつがなく仕事に打ち込めるように家事労働は女性とされていました。しかし、今回のように夫婦で育児休暇をとりたいと希望するケースは、男女共同参画社会が浸透すれば、さらに増えていくことが想定されます。にもかかわらず男性の育児休暇取得を認められないということが続けていくとどうなるのでしょうか。やはり個人の能力ややる気に関わらず、男性には責任ある仕事を、女性にはそれなりの仕事を、と性別によって仕事の配分を変えてしまうことになりかねません。また、男性も育児に関わる大切な機会を奪われることになってしまいます。このような目に見えない差別をなくしていくことが重要なのです。男性と同じ条件で採用した女性社員にも、仕事や研修のチャンスが平等に与えられ、子育てには夫婦が協力できるように企業がサポートできる姿勢を大いに期待していきたいと思います。受け入れ側としても最初は勇気があるかもしれませんが、他の会社に先駆けて実践してみるのもいいのではないのでしょうか。

# 第5話「自治区の役員について」







ありがとうございます。

月1回の組織会でも  
実際に出席する半分以上は、  
女性ですからね。



今、鈴木さんから  
女性を役員の中に  
入れてはどうか、  
というご意見を  
いただきましたが、

他にご意見は  
ありませんか？



うちには、  
女性会が  
ありますよね。

いきなり、個人に名指しても  
なかなか出にくいと思うんですよ。  
例えば、女性会の皆さんに相談して、  
女性の人材を出してもらってはいいんじゃないか。



いい意見だと  
思いますが、  
実際のところ  
誰にお願い  
したら  
いいの。

引き受けて  
くれそうな人は  
いますかね。



## ここがポイント



豊田市の中には300以上の自治区があり、区長さんを中心に活発な自治区活動が行われ、また、担い手として女性の皆さんが活躍しているようです。

但し、今回のように自治区の事業を企画したり、運営するメンバーの中に女性の参画は少ないようです。お手伝い的な役割を女性に求めたり、そういうものなのだという漠然とした思い込みをしている人は意外と多いのではないのでしょうか？

今回の自治区では女性会、いわゆる従来の婦人会組織に相談し、役員の人選をお願いするというストーリーでした。男女共同参画社会が実現され男性も女性もともに地域社会に参画できるようになれば、「女性会」というように女性だけの団体は作らなくてもよくなるのかもしれませんが。豊田市では、女性会を男女共同参画社会実現に向けて、女性が持てる力を発揮すること、いわゆるエンパワーメントの場として位置付けています。その場をきっかけとして、女性自身も社会に眼を向け、積極的に取り組む姿勢が求められます。また、それを受け入れる男性の意識改革も重要です。「女性だから、男性だからこれが得意」ではなく「あそのさんはこれが得意、こっちはこれが得意」といったように一人ひとりの持てる力を地域で活かせるよう、皆で話し合い、地域の共同参画を積極的に進めていきたいですね。

# 第6話「ワリカン」



たかしよくこんな店  
知ってたねえ。  
見直しちゃった。

あゝ  
おいしかった！



お支払いは

ご一緒に  
よろしいですか？



だろ。

ゆかり前に  
おいしい  
イタリアン  
食べたいって  
言ってたからさ。

んゝ

満喫、満喫。  
大満足よ。



さうだね。  
おいしいものの  
あとは感動が。  
賛成！



そっか？良かった。  
さあ、映画でも行くっか。







ちよ、ちよつと  
待てよ、  
ゆかり〜。

何で  
そーなふたー

もういい、  
帰る。



そんな気分じゃ  
ないよ、もう。

別にこだわってる  
わけじゃないもん。  
そんなことより  
映画いこうよ。



子どもみたいなこと  
言わないでよ。

なによそれ、

たかし最悪。



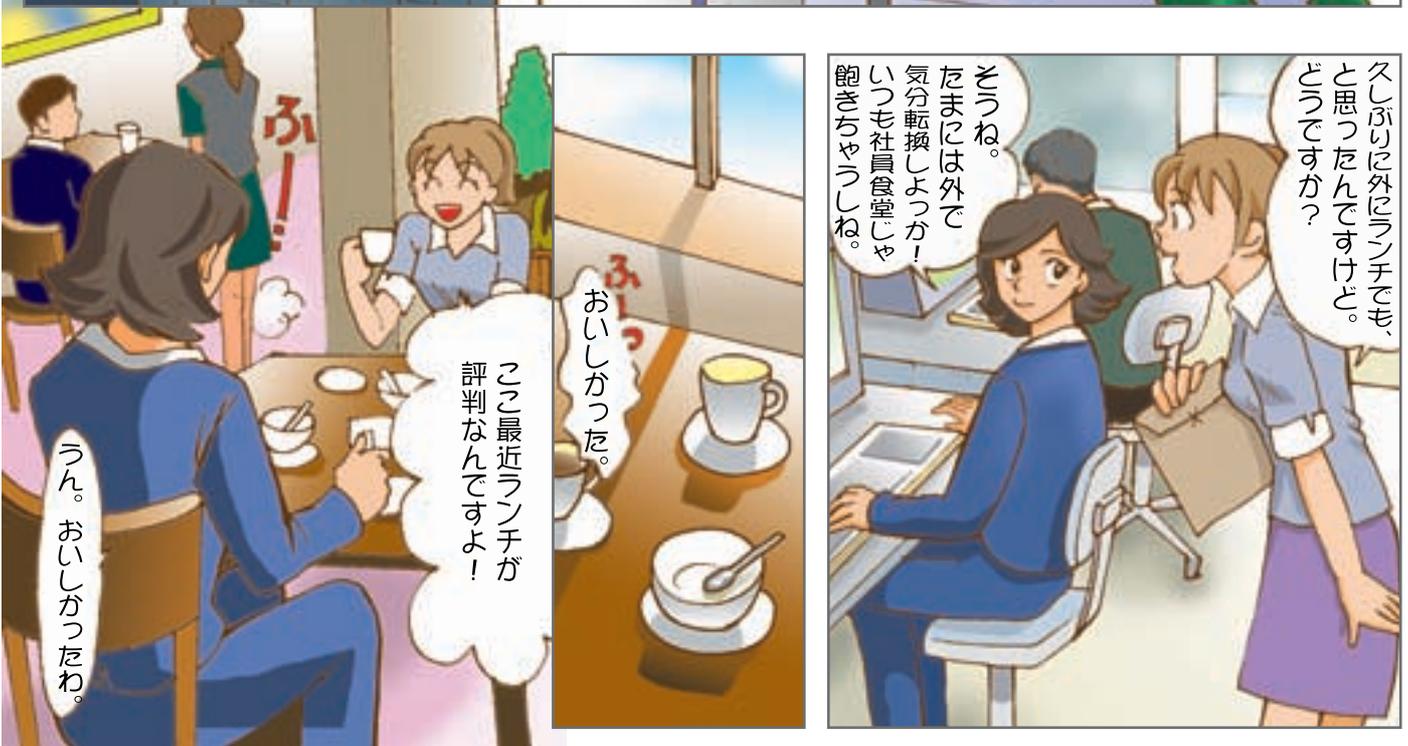
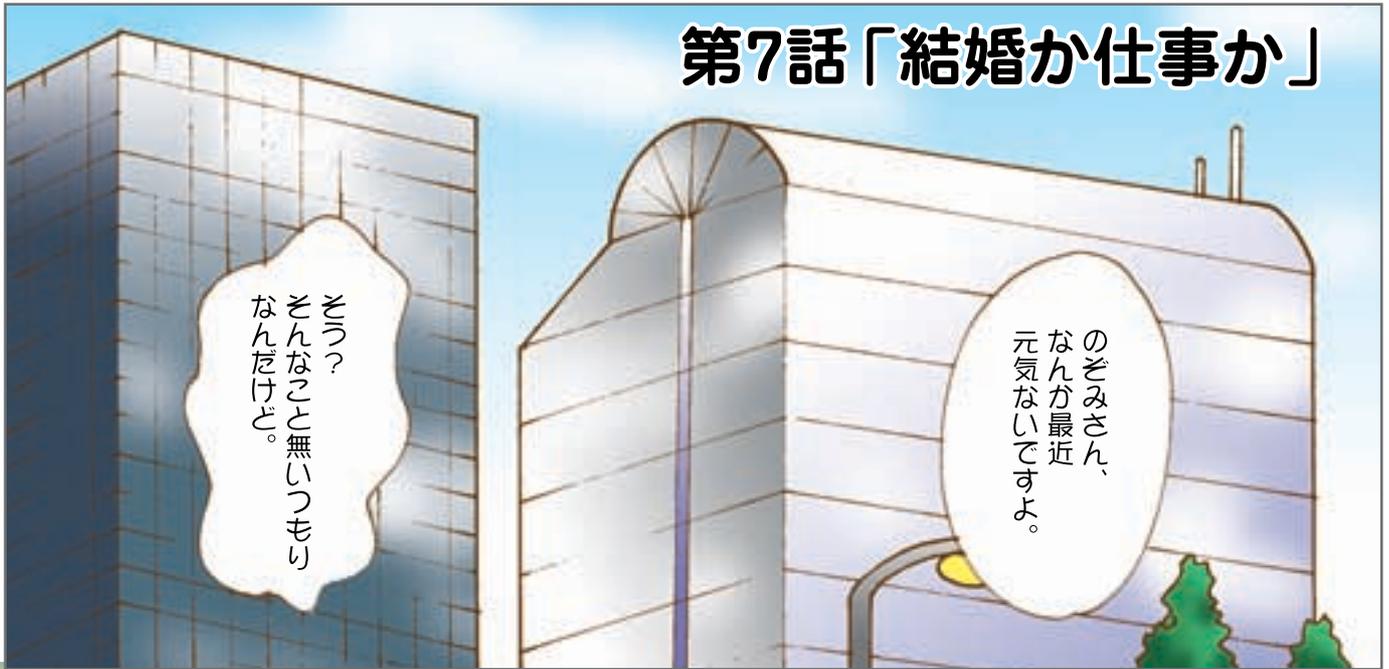
## ここがポイント



ワリカンにしたいと思いつつもなかなか言い出せない、そんな経験をもつ女性は結構いるのではないのでしょうか。反対にいつも自分が払うのはおかしいなあ、と感じている男性もいることでしょう。デート代、これは意外と身近なジェンダーなのです。デート代くらい出せないと男じゃない、そんなことを言う人もいますが、本当にそうでしょうか？普通はデートとなれば男性が払うもの、なのにワリカンにしたいという言葉に二人の関係までもが違って見えてしまう。言いかえれば、男性はこういうもの、女性はこういうものという思い込みはそれほど強いものと言えます。

もう少し違う視点から見てみましょう。この「おごり、おごられる」関係とは何でしょうか。おごる男性がおごられる女性に求めるものは何でしょうか？「おごる、おごられる」という関係は潜在的に「支配する側とされる側」という関係に置き換えることができます。恋人同士の頃はそれでよくても、一旦家庭に入り夫婦という関係になったとき、この「支配する、される」という関係性が表面化することはよくあることなのです。お互いを信頼しあう対等な関係でありたいと思う気持ちがあるならば、どちらか一方が常に支払う、のではなくワリカンもいいのではないのでしょうか。こうしなくてはいけない、とか普通はこうだろう、という言葉に惑わされることなく二人の関係を築いてほしいと思います。

# 第7話「結婚か仕事か」





彼も上司にそれとなく  
言われたみたいなの。  
同期も  
そろそろ  
海外に行き  
始めている  
みたい  
だし…

うわーっ

海外ですかあ、  
いいなあ、私も海外  
生活してみたい。



うん。それがね、  
彼が結婚を切り出したのは  
わけがあるのよ。

ほら、海外赴任って  
家庭をもつてからっていう  
暗黙の了解みたいなのが  
あるでしょ。



急に彼が  
結婚しようって  
言ってきたぞ。

ちよつとね。

ええ〜！  
おめでたいじゃ  
ないですか！  
なんでそんなに  
沈んでるんですか？

え



それは嬉しいん  
だけどねえ。

退職する決心が  
つかなくて。

えっ！

そついえば、のぞみさん  
結婚しても仕事は続けたいって  
言ってましたよね。  
でものぞみさんの彼も  
仕事続けていって  
言ってたんじゃないかって  
でしたっけ!?



そつ言ってたけど、  
海外赴任なら  
しょうがない  
じゃないかって  
感じなの。

外国に  
行かないぞ



そついうわけじゃ  
ないんだけどねえ。





## ここがポイント



海外赴任に伴い妻が仕事を辞めてついていく、ということはよく聞く話ではないでしょうか。夫が海外に行くなら妻はついていくのは当たり前、そう思う方もまだまだ沢山いますし、結婚し、家庭を持つということが海外赴任の条件のように捉えられていることも、妻がついていくのは当たり前という考えを後押ししているように思います。しかし、本当に女性はすんなりとその選択をしているのでしょうか？男性は仕事を続けながら家庭や子どもを持つことを社会が認めてくれています。しかし、女性はことあるごとに『結婚か仕事か』とか『仕事か家庭か』という非常に大きな選択を迫られます。さらに、周りの人は女性ならば、結婚や家庭を選ぶものと思い込んでいます。これでは本当の意味で自分の人生を選択することはできませんね。大切なことは、「これが当たり前だから」ではなくお互いを尊重しながら二人で話し合い、結論を出していくというプロセスです。どちらかの人生にどちらかがくっついている、のではなくこれからの二人の人生を二人で作っていくことが大切なのです。そのためにも、夫ならば、妻ならばではなく個人としての多様なあり方を認める社会づくりや企業のサポートが必要ですね。

# 第8話「『女の子』と『女性社員』」









## ここがポイント



今回の話に出てきたように、結婚し出産するという機会に女性は仕事をやめ、家庭に入るといったことが一般的でした。しかし、中には働き続けたくてもそれを受け入れる職場環境が整っていないためにやめざるを得なかった人もいます。女性でも能力があり、責任をもって仕事を続けたいと思う人はたくさんいます。その能力を活かすためには、まず環境を整えることが必要です。女性は出産という女性にしか備わっていない能力があり、たとえ働きたくても、一定期間職場を離れなくてはなりません。しかし、産休や育児休暇を取得していても、現在の通信技術をもってすれば、職場とコミュニケーションをとっていくことも決して不可能なことではありません。働きたいと希望する女性が長く働き続けられるように、育児休暇中にパソコンを貸し出したり、企業内に託児所を設けたりする企業も見られるようになりました。男性は人一倍仕事をし、女性はその補助をするのではなく、女性も男性も自分の能力を最大限活かせるような職場が、どんどん増えていって欲しいと思います。会社側も頭を切り替えないと、『いい人材がない』のではなく、『いい人材が入ってこない』会社になってしまうかもしれません。そうなる前に、あなたの職場を、もう一度見直してはいかがでしょうか？

# 第9話「ジョブトレーニングは男女別?!」









## ここがポイント



同じ職場の中でも、部下に対する上司の態度や指導が女性と男性とは違う。このようなことはよくあるようですね。今回の話のように、無意識のうちに対応を変えてしまっている、という人も多いでしょう。しかし、女性は男性と同じように仕事をする能力が本当に無いのでしょうか？ ジョブトレーニングとは社員に業務を与え、適切に指導しながら経験を積ませていくことをいいますが、トレーニング内容を性別によって変えては、同じ結果は出せません。従来は『責任ある仕事は男性に、女性は補助的な業務』と会社の中の女性と男性の役割は、個人の能力に関わらず性別によってはっきり分かれていました。しかし、社会の変化や、男女雇用機会均等法の施行にともない、女性も男性と等しく職業につき働くことができるようになりました。いいかえれば会社は性別に関係なく従業員を雇用することが法律で定められたということです。同じ条件で雇用したにもかかわらず、従来どおり女性と男性の役割を分けているとしたら、女性は能力を発揮することができず、男性は今まで以上に重い責任を負わされることになり、女性にとっても男性にとっても不利益なばかりか、会社にとっても大きな損失なのでは？ 不況不況といわれる時代だからこそ、性別に関係なく一人ひとりがその能力を生かせるような環境作りをして欲しいですね。

# 第10話「人生を楽しく」







どうでした？  
蕎麦うち講座。

いやあ、  
大変だったよ。  
急だったなあ。

30名に教えるのは  
なかなか骨が  
折れるよ。



あら、なんだかんだ  
又言ってるわりにには  
楽しかったみたいね。

受講生は  
男性ばかり  
なの？

いや、それが  
半分は夫婦で  
来てたみたい  
だったなあ。

話し聞いたら結構夫婦で  
色んな講座に参加してるって  
人が多かったよ。



でもみんな  
熱心でなあ、  
おいしそうに  
食べていたよ。



とかなんとかいって  
嬉しいくせに。  
でも良かったわね  
趣味が生かせて。  
これから  
忙しいけど  
楽しくなる  
じゃない。

そうだなあ、

ほほほ



へえ、そうなの。  
じゃあ私達も今度何かに  
参加してみましようか。

おまえも蕎麦うち  
やってみたらどうだ？  
実はなあ、今回の講座が  
好評だったんで、  
自主グループができたんだよ。  
月2回ほど集まって  
やるんだってさ。  
大変だよ。



## ここがポイント



皆さんは『生活的自立』という言葉をご存知でしょうか？炊事・洗濯・買物といった生きるために必要なことが自分でできるかどうかということを目指す言葉です。これには自分の生活をよりよく生きるための情報を自分で見つけたり、自ら参加したりと言ったようなことも含まれます。簡単に言えば、一人で生活ができて、かつ趣味や生きがいを持って生きられるかということですね。一般的に男性はこの『生活的自立度』が低いといわれています。それはなぜでしょうか？答えは簡単。やったことが無いからです。実はここにもジェンダーが深く関わっています。従来の社会は「男は仕事・女は家庭」と性別によってその役割をはっきり分けてきたために一生懸命仕事一途に頑張ってきた人ほど、この生活的自立度は低いといえます。退職後、自分の生活能力の無さは深刻な問題となって本人に跳ね返ってきます。その結果として、家の中に居場所が見つからない、何をしたいのかわからない、といった心の悩みを抱える人もいます。平均寿命は延び、退職後20年は生きることになります。できれば健康でいきいきと生活したいですね。最近は生涯学習の機会として、交流館などで開催される講座も夜間や土日など仕事を持っている人でも参加できるものや男性が参加できるものがどんどん増えています。男性も現役時代から積極的に参加しておけば、きっと今回のように第二の人生を自分らしく生きられると思います。

## キラッ☆とよた (とよた男女共同参画センター)

男女共同参画を推進する拠点施設「豊田女性センター」が、更に男女のパートナーシップによる社会づくりを目指すために、平成17年4月「とよた男女共同参画センター」(愛称「キラッ☆とよた」)に名称変更しました。

センターでは、各種講座・セミナーなどの開催、情報誌「クローバー」の発行、FMとよた(78.6MHz)「10min ジェンダー講座」「あなたとわたしの伝言板」などを通じて男女共同参画の理解を深め、活力ある社会づくりを進めています。

〒471-0034 豊田市小坂本町1-25  
(豊田産業文化センター2階)  
TEL 0565-31-7780  
FAX 0565-31-3270

# ジェンダーってなに? 2

男女共同参画社会をめざして

平成18年4月 第3刷

漫 画 / 篠沢こずみ(コズミックマンガデザイン事務所)  
発行・編集 / キラッ☆とよた(とよた男女共同参画センター)

※無断転載・転用を禁止します。